

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和6年 6月10日

豊 田 市 長 殿

提出者

住所 名古屋市中区錦2丁目2-13

氏名 株式会社竹中工務店 名古屋支店

支店長 吉 口 勝 史

電話番号 052-211-2111

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和5年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

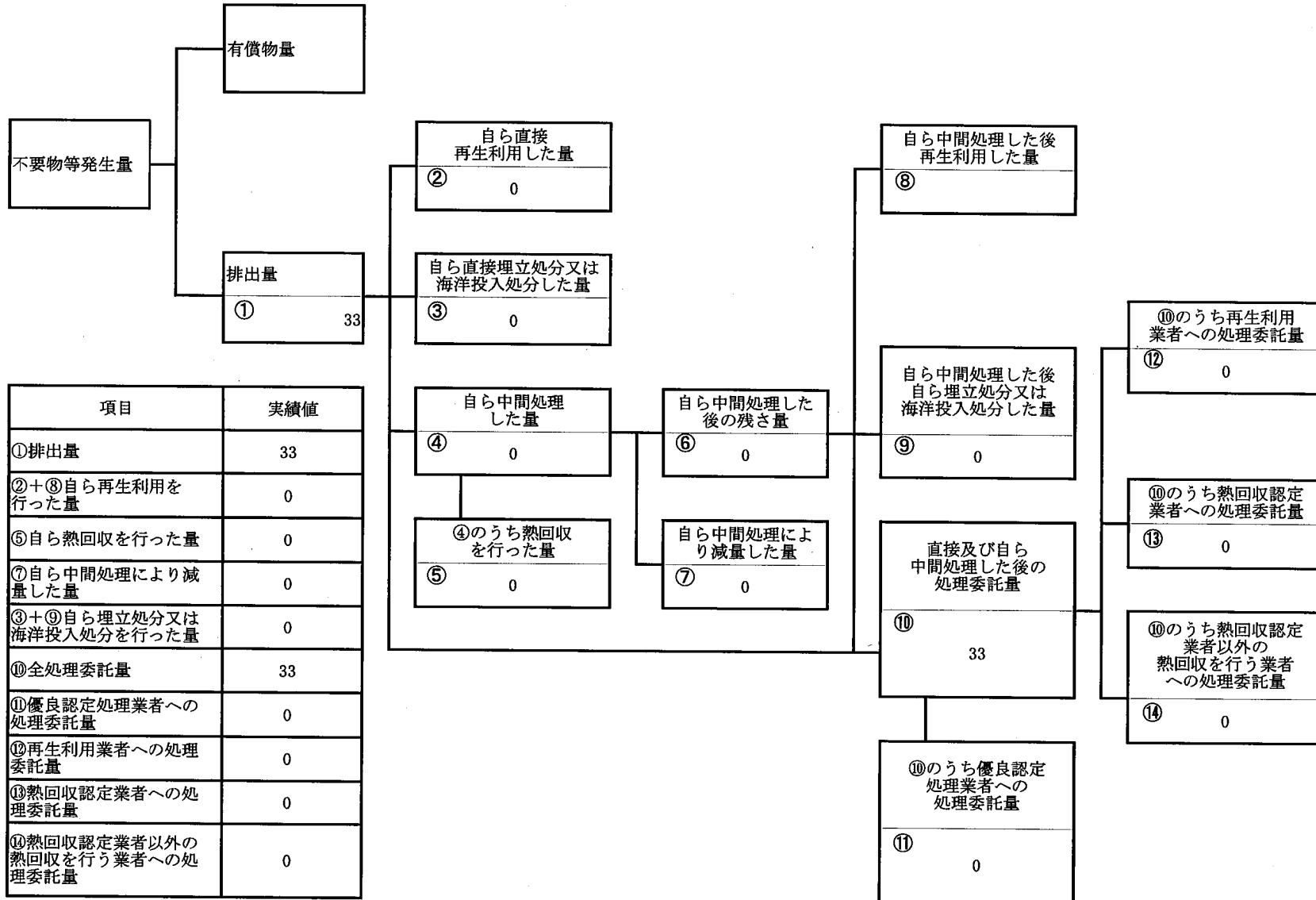
事業場の名称	株式会社竹中工務店 名古屋支店
事業場の所在地	豊田市平和町1丁目1-1他
事業の種類	06：総合工事業
産業廃棄物処理計画における計画期	令和5年4月1日～令和6年3月31日

産業廃棄物処理計画における目標値

項目	目標値	項目	目標値
排出量	3000 t	全処理委託量	3000 t
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	優良認定処理業者への処理委託量	0 t
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	再生利用業者への処理委託量	2270 t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	認定熱回収業者への処理委託量	0 t
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t
※事務処理欄			

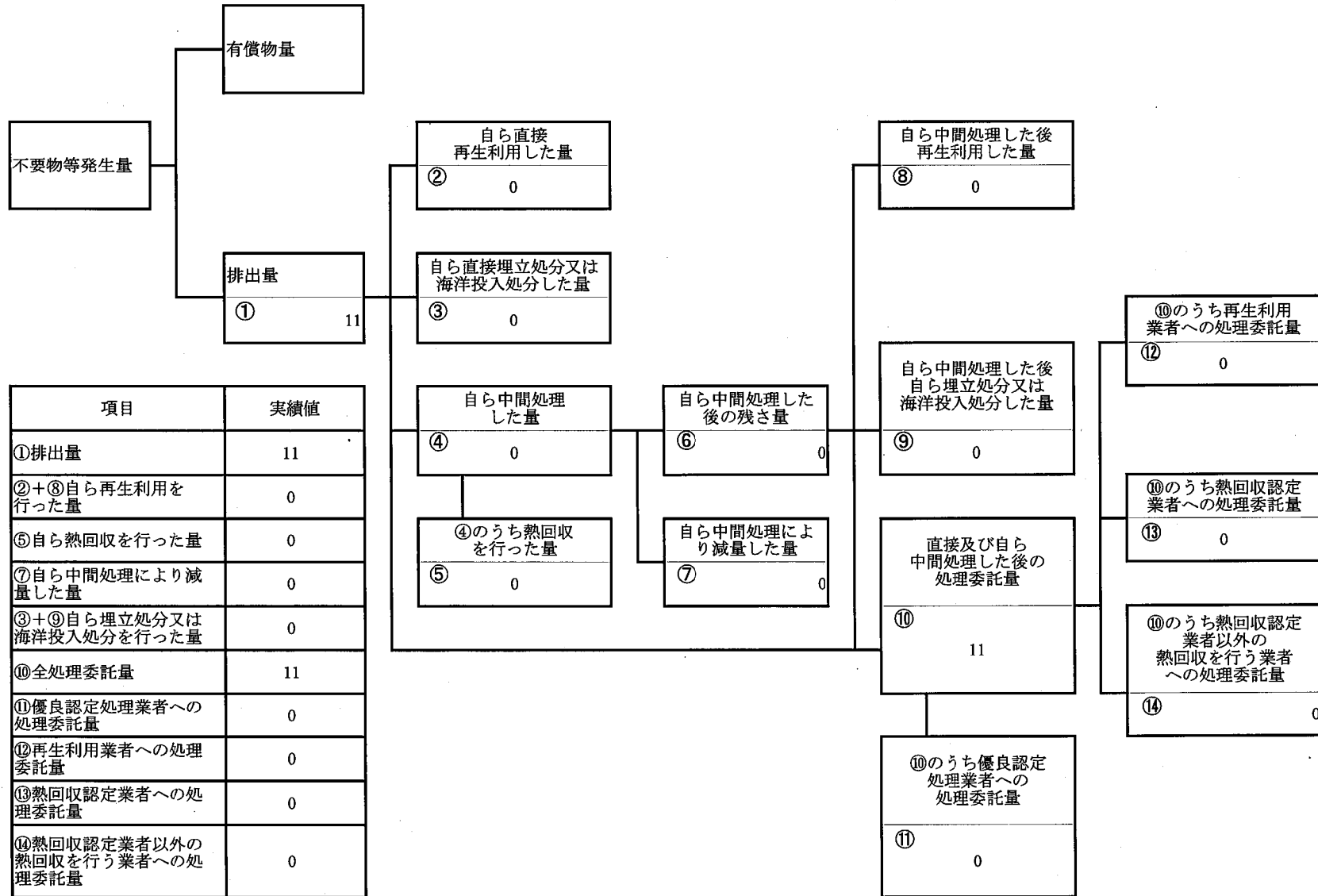
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類：汚泥)



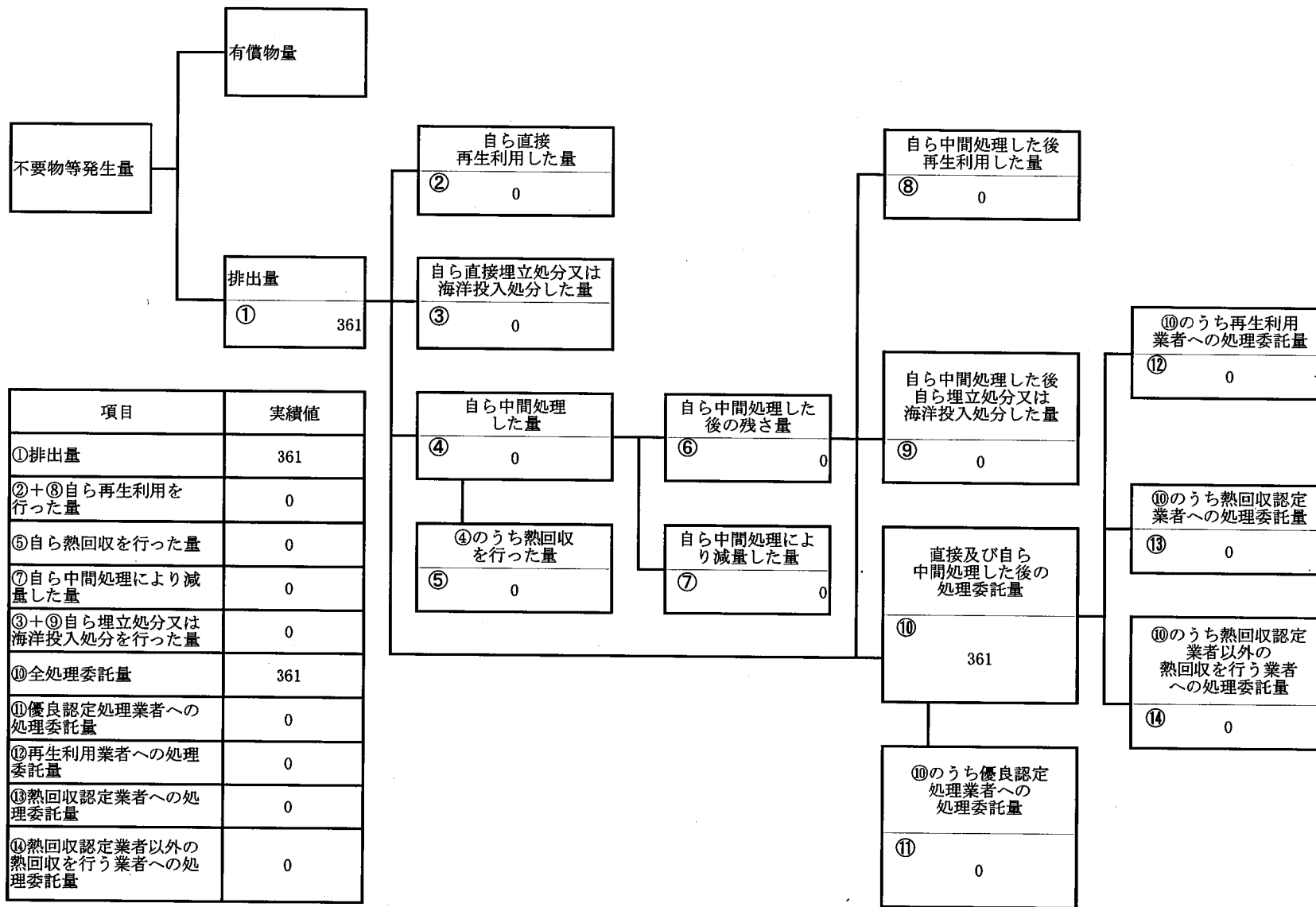
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類：廃アルカリ)



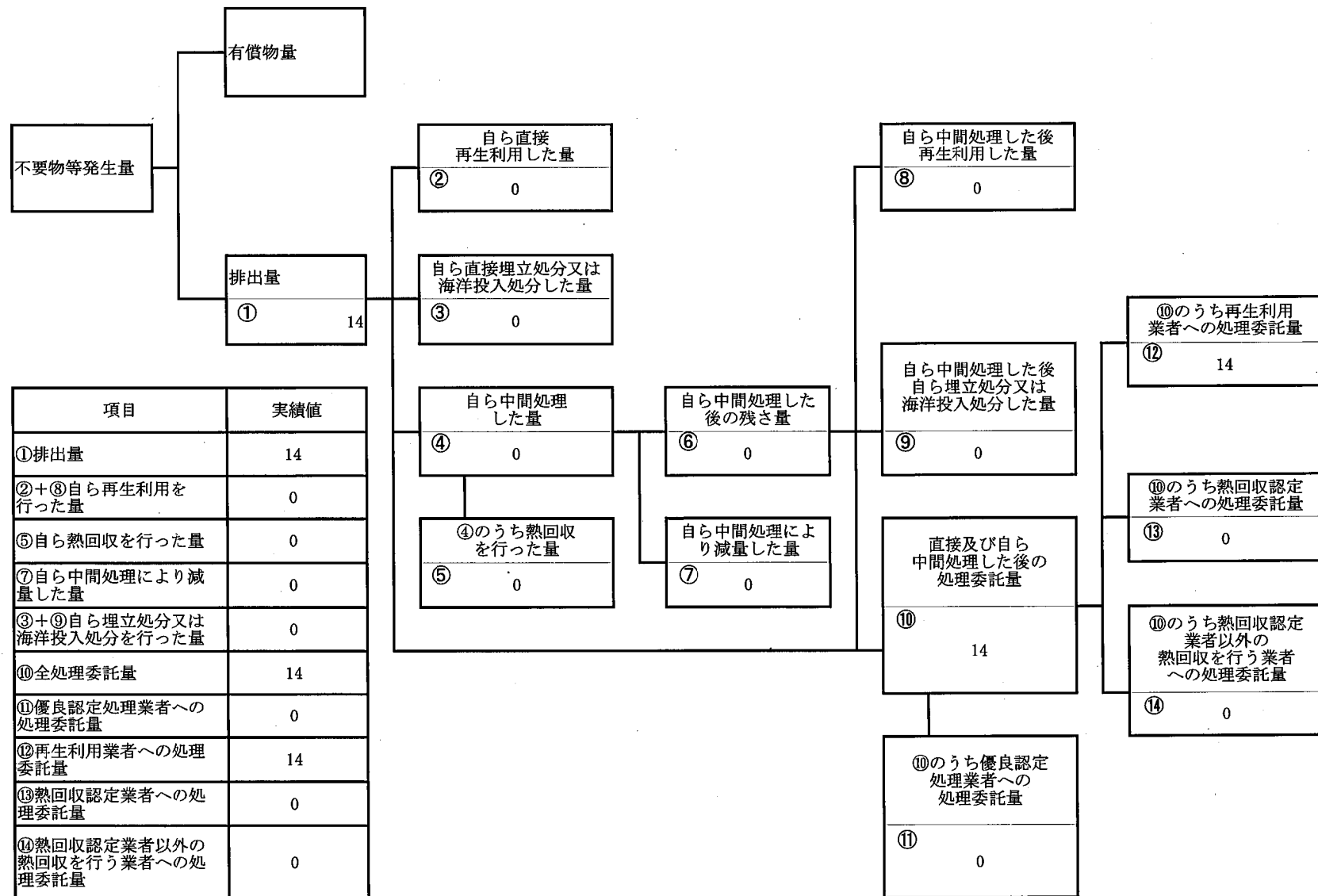
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類：廃プラスチック類)



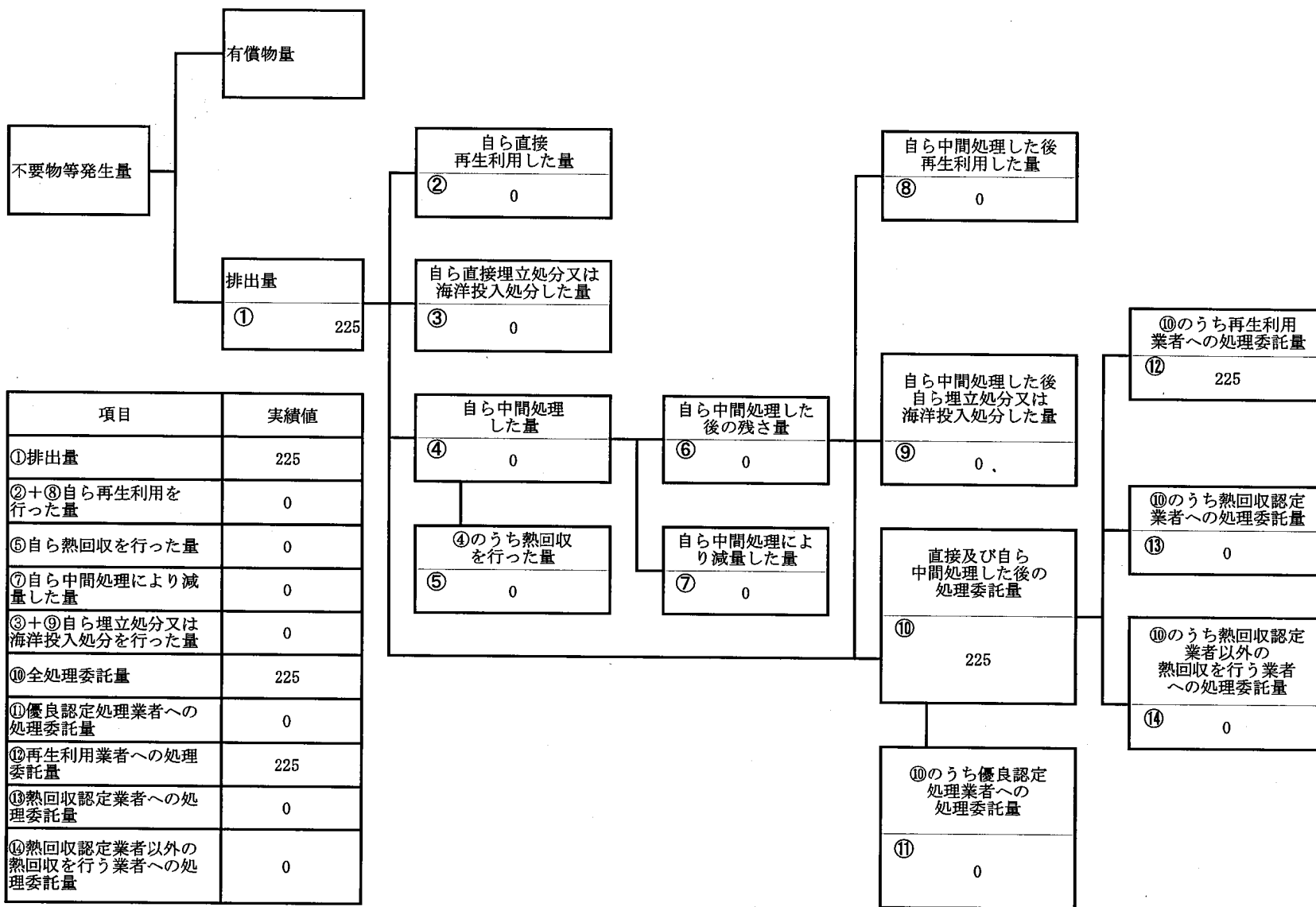
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類：紙くず)



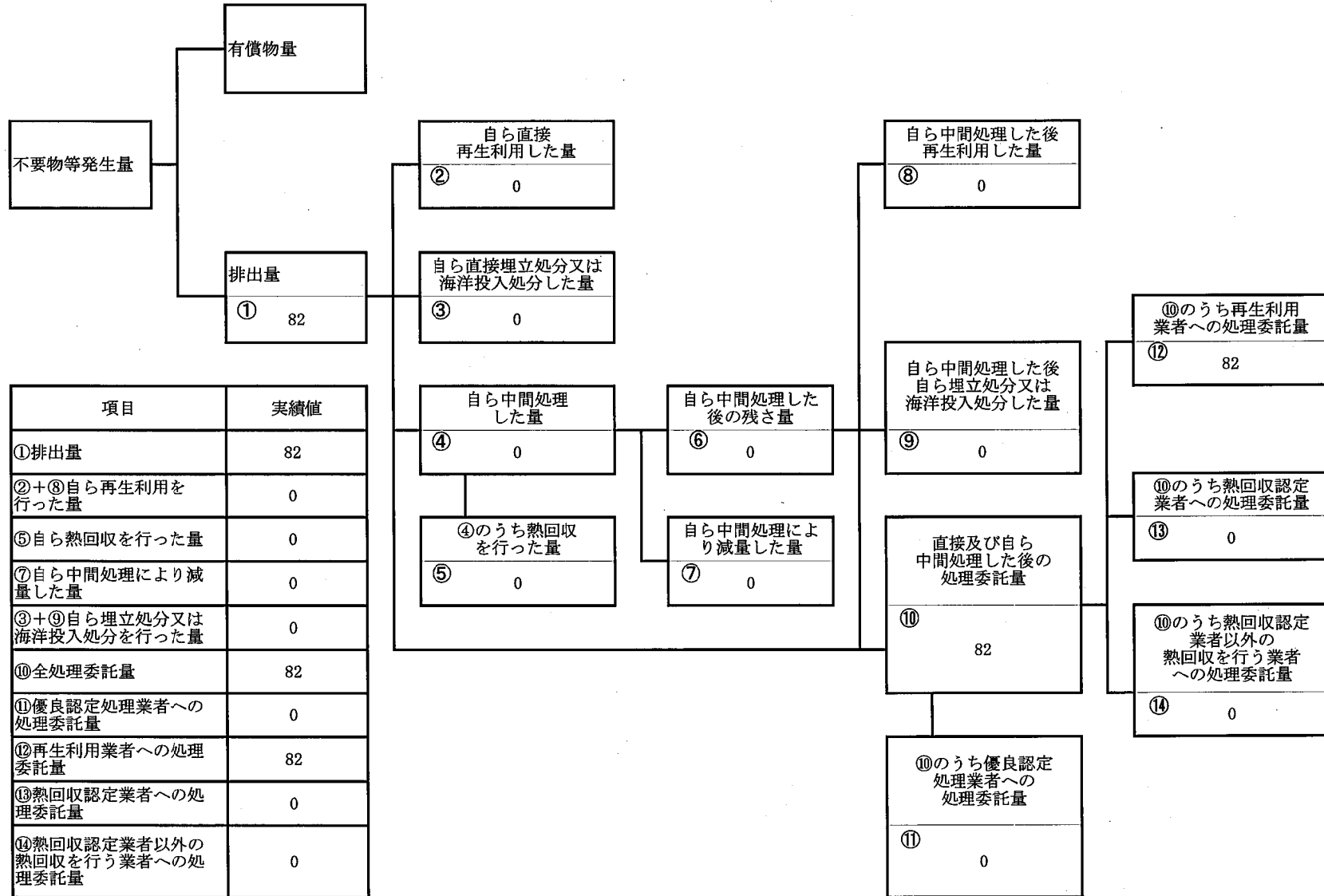
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類：木くず)



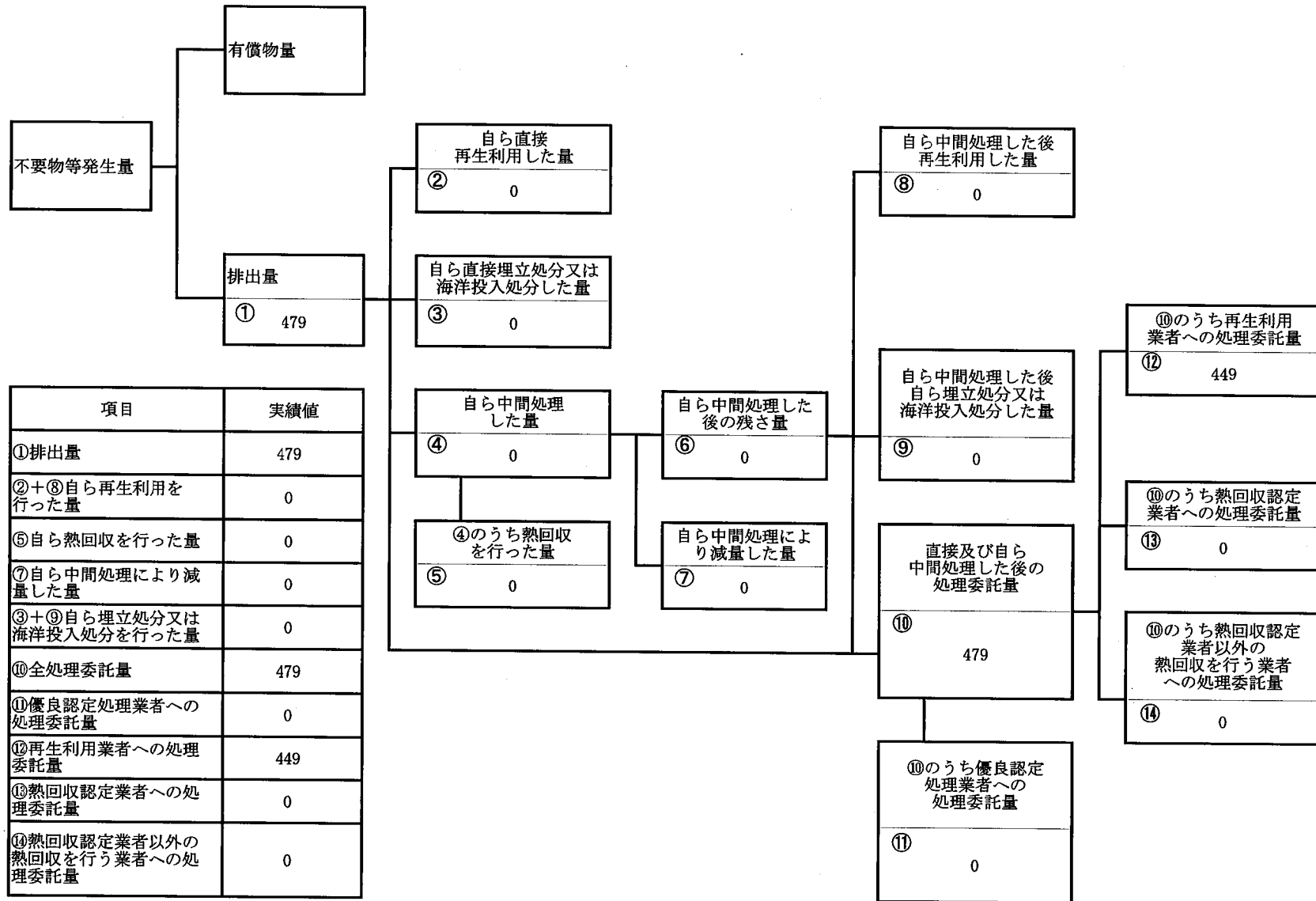
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類：金属くず)



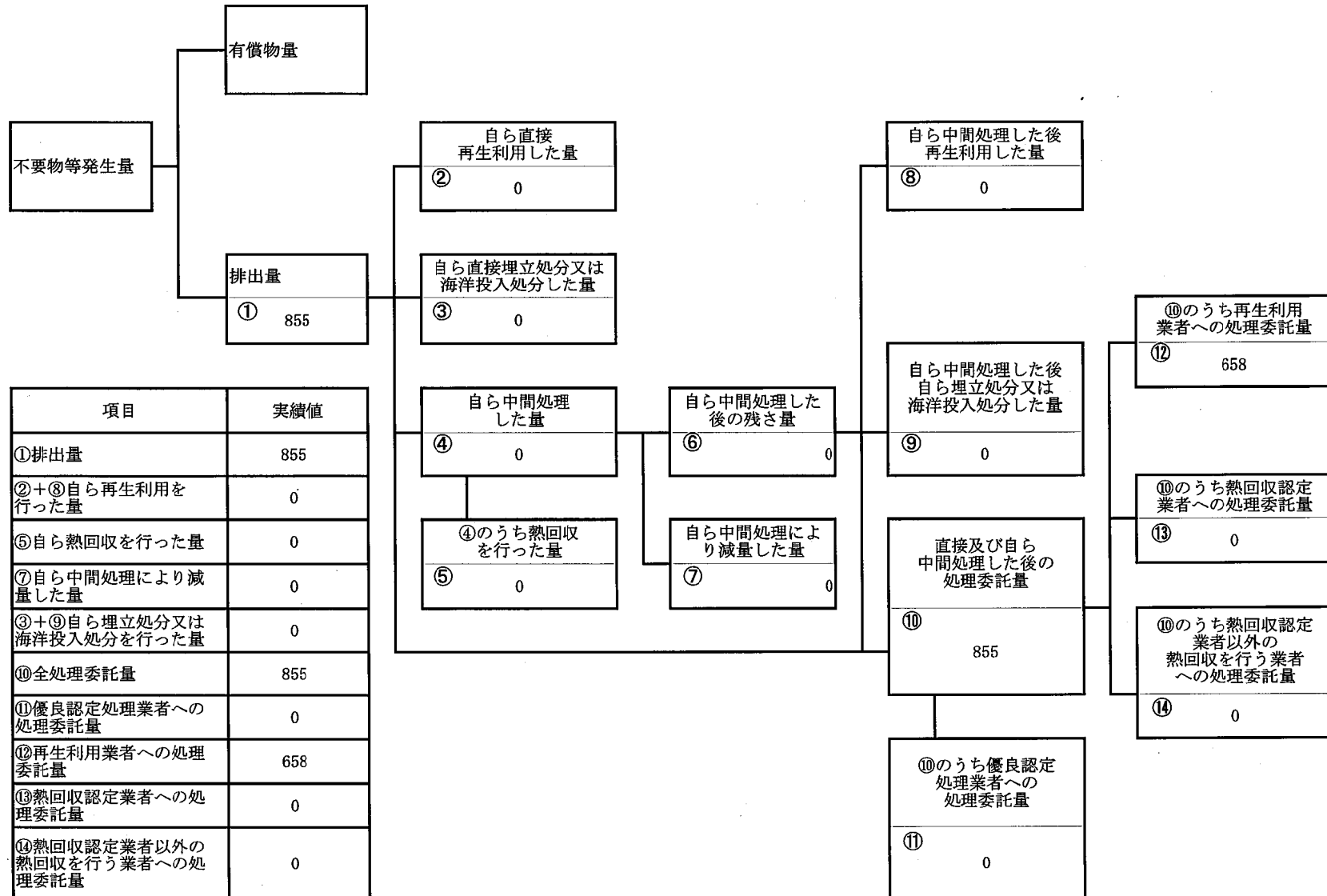
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類：ガラス陶磁器くず)



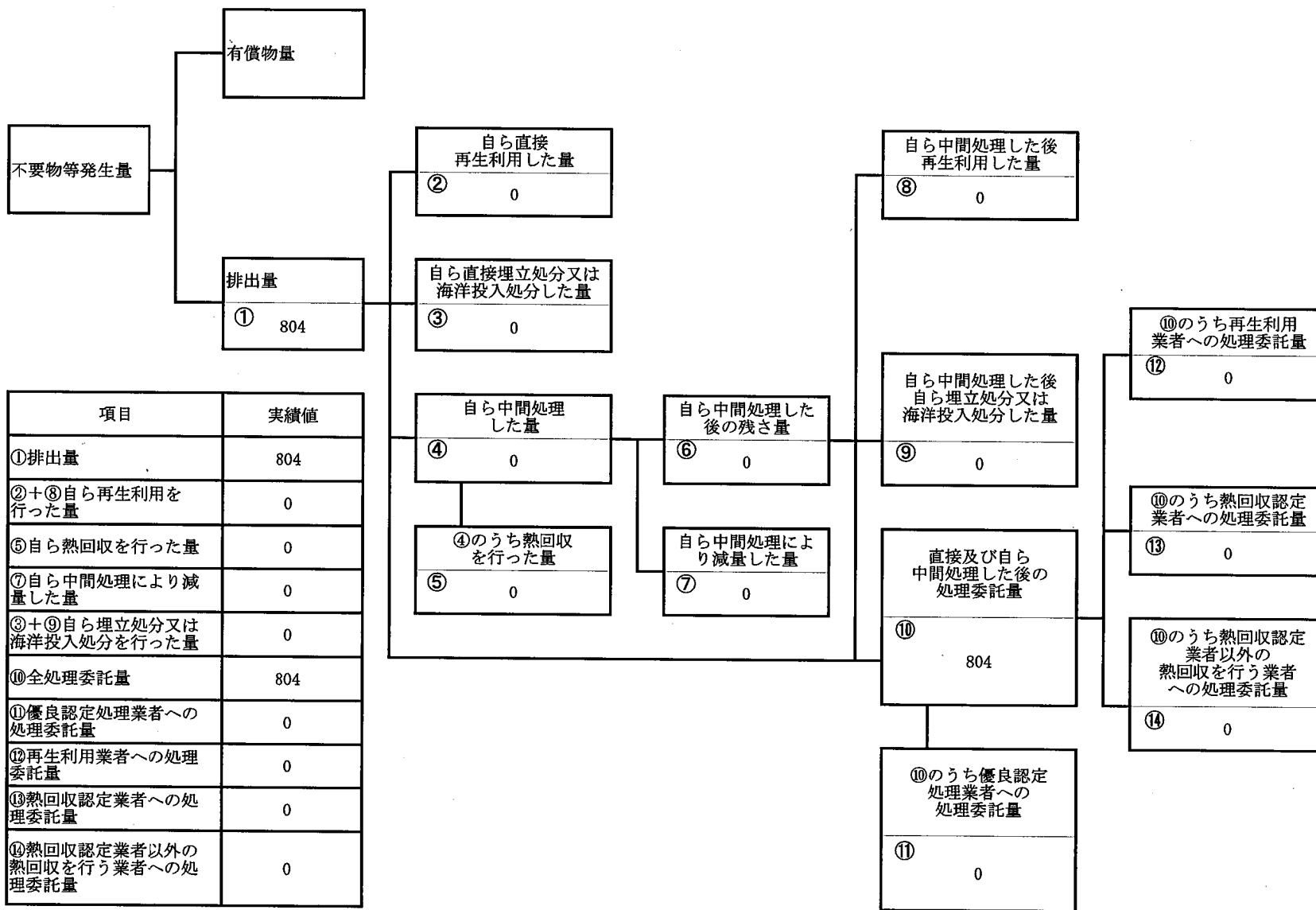
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類：がれき類)



計画の実施状況

(産業廃棄物の種類：混合物)



備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物の処理に関して、①～⑭の欄のそに掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載し入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添

産業廃棄物処理状況調査票

(No. 1/2)

1 事業場の概要

項目	内容	項目	内容	備考
事業場の名称	株式会社竹中工務店 名古屋支店	従業員数(人)	1,094	前年度の3月31日現在の従業員数(パート等の臨時職員及び役員等を含む)を記入して下さい。
記入者名	安全環境部 安田元彦	当該事業所の元請完成工事高(万円/年)	2,924,100	建設業の場合記入。 愛知県内(政令市を除く。)で行われた工事の年間の元請完成工事高(出来高工事を含む)を記入して下さい。
連絡先	052-201-0698	当該事業所の製造品出荷額(万円/年)		製造業の場合記入。 前年度の4月1日から3月31日までの1年間の額を記入して下さい。

2 実施状況

項目	産業廃棄物の種類 (名称)	汚泥	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず
		建設汚泥				
前 年 度 計 画 の 実 施 状 況 (5 年 度 実 績)	a 不要物等発生量(t/年)	33	11	361	14	225
	b 有償物量(t/年)	0	0	0	0	0
	① 排出量(t/年) (①=a-b)	33	11	361	14	225
	② 自ら直接再生利用した量(t/年)	0	0	0	0	0
	再生利用用途	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()
	③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)	0	0	0	0	0
	埋立処分先	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外
	④ 自ら中間処理した量(t/年)	0	0	0	0	0
	処理方法	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()
	⑦ 自ら中間処理により減量した量(t/年) (⑦=④-⑥)	0	0	0	0	0
	⑥ 自ら中間処理した後の残存量(t/年)	0	0	0	0	0
	⑧ 自ら中間処理した後再生利用した量(t/年)	0	0	0	0	0
	再生利用用途	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()
	⑨ 自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)	0	0	0	0	0
	埋立処分先	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外
	c 自ら中間処理した後の処理委託量(t/年) (c=⑥-⑧-⑨)	0	0	0	0	0
	d 直接処理委託量(t/年) (d=①-②-③-④)	33	11	361	14	225
	⑩ 直接及び自ら中間処理した後の処理委託量(t/年) (⑩=c+d)	33	11	361	14	225
	e 埋立処分又は海洋投入処分の処理委託量(t/年)	0	0	0	0	0
	埋立処分先	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外
	f 委託中間処理量(t/年)	33	11	361	14	225
	処理方法	B・E (造粒固化)	A	C	C	A・B
	g 委託中間処理により減量した量(t/年)	10	9	0	0	0
	h 委託中間処理した後再生利用した量(t/年)	23	0	180	14	225
	再生利用用途	D	A・B・C・D E ()	B	A・B	A・B・C・D E ()
	i 委託中間処理した後埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)	0	2	181	0	0
	埋立処分先	A 県内・B 県外	B 県外	B 県外	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外
	j 再生利用量(t/年) (j=②+⑧+h)	23	0	180	14	225
	k 中間処理による減量(t/年) (k=⑦+g)	10	9	0	0	0
	l 最終処分量(t/年) (l=③+⑨+e+i)	0	2	181	0	0

(注) 1 産業廃棄物発生・処理フロー図を参考に記載してください。

2 再生利用用途コード A: 原料・材料 B: 燃料 C: 飼料・肥料 D: 建設材料 E: その他(具体的に記載)

3 処理方法コード A: 焼却・溶融 B: 脱水・乾燥 C: 破砕・圧縮 D: 中和 E: その他(具体的に記載)

4 記入欄が不足する場合は、シートをコピーしてお使いください。なお、この場合、右上No. 欄にページを記載してください。

5 ①~④、⑥~⑩は様式第二号の九又は様式第二号の一四の第2面と同じ項目です。

産業廃棄物処理状況調査票

(No. 2/2)

1 事業場の概要

項目	内容	項目	内容	備考
事業場の名称	株式会社竹中工務店 名古屋支店	従業員数(人)	1,094	前年度の3月31日現在の従業員数(パート等の臨時職員及び役員等を含む)を記入して下さい。
記入者名	安全環境部 安田元彦	当該事業所の元請完成工事高(万円/年)	2,924,100	建設業の場合記入。 愛知県内(政令市を除く。)で行われた工事の年間の元請完成工事高(出来高工事を含む)を記入して下さい。
連絡先	052-201-0698	当該事業所の製造品出荷額(万円/年)		製造業の場合記入。 前年度の4月1日から3月31日までの1年間の額を記入して下さい。

2 実施状況

項目	産業廃棄物の種類 (名称)	金属くず	ガラス陶磁器くず	がれき類	混合物	
					建設混合	
前 年 度 計 画 の 実 施 状 況 (5 年 度 実 績)	a 不要物等発生量(t/年)	82	479	855	804	
	b 有償物量(t/年)	0	0	0	0	
	① 排出量(t/年) (①=a-b)	82	479	855	804	
	② 自ら直接再生利用した量(t/年)	0	0	0	0	
	再生利用用途	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()
	③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)	0	0	0	0	
	埋立処分先	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外
	④ 自ら中間処理した量(t/年)	0	0	0	0	
	処理方法	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()
	⑦ 自ら中間処理により減量した量(t/年) (⑦=④-⑥)	0	0	0	0	
	⑥ 自ら中間処理した後の残さ量(t/年)	0	0	0	0	
	⑧ 自ら中間処理した後再生利用した量(t/年)	0	0	0	0	
	再生利用用途	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()	A・B・C・D E ()
	⑨ 自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)	0	0	0	0	
	埋立処分先	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外
	c 自ら中間処理した後の処理委託量(t/年) (c=⑥-⑧-⑨)	0	0	0	0	
	d 直接処理委託量(t/年) (d=①-②-③-④)	82	479	855	804	
	⑩ 直接及び自ら中間処理した後の処理委託量(t/年) (⑩=c+d)	82	479	855	804	
	e 埋立処分又は海洋投入処分の処理委託量(t/年)	0	13	16	16	
	埋立処分先	A 県内・B 県外	B 県外	B 県外	B 県外	A 県内・B 県外
	f 委託中間処理量(t/年)	82	466	839	788	
	処理方法	C	C	C	C	A・B・C・D E ()
	g 委託中間処理により減量した量(t/年)	0	0	0	0	
	h 委託中間処理した後再生利用した量(t/年)	82	449	658	390	
	再生利用用途	A	A・D	D	A・B・D	A・B・C・D E ()
	i 委託中間処理した後埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)	0	17	181	398	
	埋立処分先	A 県内・B 県外	B 県外	B 県外	A 県内・B 県外	A 県内・B 県外
	j 再生利用量(t/年) (j=②+⑧+h)	82	449	658	390	
	k 中間処理による減量(t/年) (k=⑦+g)	0	0	0	0	
	l 最終処分量(t/年) (l=③+⑨+e+i)	0	30	197	414	

(注) 1 産業廃棄物発生・処理フロー図を参考に記載してください。

2 再生利用用途コード A:原料・材料 B:燃料 C:飼料・肥料 D:建設材料 E:その他(具体的に記載)

3 処理方法コード A:焼却・熔融 B:脱水・乾燥 C:破碎・圧縮 D:中和 E:その他(具体的に記載)

4 記入欄が不足する場合は、シートをコピーしてお使いください。なお、この場合、右上No.欄にページを記載してください。

5 ①~④、⑥~⑩は様式第二号の九又は様式第二号の一四の第2面と同じ項目です。